令和3年度　大田区立南六郷中学校　自己評価　報告書

令和4年3月3日

○　本校の概要

■生徒数：577名　　学級数：17学級（第1学年：6学級　第2学年：5学級　3学年：6学級）　　教員数：31名
「今年度の重点目標と方策」
（1）新型コロナウィルス感染防止対策を講じた教育活動、及び新型コロナウィルス感染症に関わる生徒の心のケアと人権に配慮した生徒指導。（2）大田区教育委員会研究推進校として、生徒用タブレットを積極的に活用し「主体的で対話的な深い学び」、「ICTの効果的な活用」を通した授業の充実を図る。（3）新学習指導要領の趣旨に沿った「指導と評価の一体化」を推進するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現し、生徒に未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に育む。（4）保護者と連携し、生徒用タブレットを活用した「家庭学習」の充実を図る。（5）開校60周年を通して、生徒が南六郷中生としての誇りをさらに持てるようにする。（6）スクールカウンセラーや外部機関と連携し、不登校、いじめの未然防止・解消及び特別支援教育の充実を図る。（7）体罰、個人情報漏洩、セクシャルハラスメント等の服務事故を起こさない、起こさせない職場づくりの推進。（8） 管理職が、教職員のライフワークバランスを鑑みながらメンタルヘルスケアに努める。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	3	【生徒・保護者による学校生活・家庭生活アンケート】 「ICTを活用した授業はわかりやすく、楽しい」「学校での活動を通じて体力が向上している」のアンケートの肯定的な回答の割合	4：90%以上 3：80%以上 2：70%以上 1：70%未満	3	【これまでの取組】 ・理科の授業では実験を充実させ、論理的な思考力を高める授業展開をおこなっている。 ・大田区教育研究推進校として、生徒用タブレットを活用した授業を実施している。 ・昼休みのグラウンド開放を行い、外で元気に遊べるようにしている。 【今後の改善策】 ・生徒用タブレットをさらに活用し、授業の充実を図るとともに、学力の定着を目指す。	A	4	・コロナ禍で環境の厳しい中、少しでも生徒が学校で学べるようにと先生方のご尽力に感謝致します。 ・コロナ禍で、今できる最大限の事を実施してくださっていると思います。 ・ICT活用の授業では、操作に戸惑うことなく学習内容がより深められているように感じる。総合的な学習の時間が行事の準備と学活になっていることがあるので活用して欲しい。 ・将来について考えるだけでなく、今現在、自分が何をしたくて、それには何が必要なのか考え、実行してみることを大切にすると力が付くと思う。 ・就学する生徒で海外の方が増える時代、日・英・中・韓の言語のうち英語力を向上させているのは会話を通じ活性が高まっているのではないか。 ・少人数指導の効果はあるようです。人数が多い授業より、少人数を増やすべきだと思う。 ・部活動で成長期の大切さを学ぶことが大切です。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	3					B	6	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4：設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3：80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2：60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1：60%未満であった。	4					C	0	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	3					D	0	
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	3							
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：80%以上で行った。 2：60%以上で行った。 1：60%未満であった。	2	【生徒・保護者による学校生活・家庭生活アンケート】 「毎日の授業を真剣に受けている」「授業がよくわかる」のアンケートの肯定的な回答の割合	4：90%以上 3：80%以上 2：70%以上 1：70%未満	3	【これまでの取組】 ・放課後に学習補充教室、土曜日に土曜補習教室を実施し、数学と英語の補習を行う体制を整えた。 【今後の改善策】 ・学習カルテやステップ学習チェックシートの活用方法を校内で検討し、生徒一人ひとりのつまずきに対応する。 ・タブレット内のアプリを活用し、数学・英語に限らず、基礎学力の定着を図る。	A	5	・このような誰も経験したことのない社会生活の中で、今できることをひとつひとつ毎月の学校生活の中で先生と生徒が頑張って実践している事は、これからの生徒たちの人生に必ず役立ってくれると思います。 ・コロナ禍で、教室授業とリモート授業を同時進行しなくてはならない各教科の先生方のご苦労お察しいたします。準備等大変だと思いますが、頑張ってください。 ・話し合い、教え合いをさせる授業が多く、学力定着やコミュニケーション力向上、得意を伸ばし有用感を得ることに役立っているよう。 ・各教科の学習の振り返りはできるが、家庭学習において何をどう組み立てるか自ら考え実行できるよう持っていけると、各教科の振り返りが生きてくると思う。 ・授業参観をさせていただき、生徒の皆さんが真剣に授業を受けておりました。ICTを使用した授業も見せていただきました。 ・授業に真剣に取り組み受けることは、じきに来る上級学校進学の大事な要素であり、素晴らしいことです。 ・とても真剣に授業を受けている様子が見られる。 ・生徒の皆さんの学校が楽しい、授業が楽しい。南中の学校環境の最良が理解できます。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3：学期毎に知らせた。 2：年度間に1回は知らせた。 1：お知らせできなかった。	2		3：80%以上 2：70%以上 1：70%未満			B	5	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4：対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3：80%以上の教員が働きかけた。 2：60%以上の教員が働きかけた。 1：60%以下の教員が働きかけた。	3					C	0	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上が回答した。 2：60%以上が回答した。 1：60%未満であった。	4					D	0	
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。	4	【生徒・保護者による学校生活・家庭生活アンケート】 「あいさつはできている」「学校生活が楽しい」「自分には良いところがある」のアンケートの肯定的な回答の割合	4：90%以上 3：80%以上 2：70%以上 1：70%未満	4	【これまでの取組】 ・学校生活調査の結果を日頃の生活指導に活用している。 ・学校のきまりを守る生徒がほとんどである。 【今後の改善策】 ・いじめ対応委員会を中心に、「いじめ見逃しゼロ」の取り組みを全教員で意識する。 ・道徳の授業の充実を図るべく、校内研修会を実施し、その成果を道徳地区公開講座で保護者や地域の方々に参観していただく。	A	7	・生徒たちだけでなく先生方も率先して挨拶をしてくれ、うれしい気持ちになります。大人たちの行動を生徒たちは見ています。これからも続けてほしいです。それが伝統になっていきます。 ・不安を抱えている生徒や、抱えることになりそうなことへの対応がしっかりされている。先生方の声掛けなどで助けられていることは多くあり、それこそが自己肯定感や有用感につながると思うので大切にして欲しい。 ・あいさつをする場を校外に広げていかれると良いと思う。 ・六郷工科に来校された2年生のみなさんは、元気よくあいさつしてくれました。 ・入学受入れは近隣の南六郷小学校からが多いと聞きます。そこでの基本的指導も良いので、さわやかなあいさつができることはけっこうなことです。 ・あいさつはいつもできていて気持ち良い。 ・日常生活の基本と思われる「あいさつ」「きまり」、とても重要ではないかと思われます。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	3					B	3	
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4					C	0	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4：「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	3					D	0	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4：必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3：必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2：必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1：必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	3							
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	3	【生徒・保護者による学校生活・家庭生活アンケート】 「朝食はほとんど毎日食べている」「学校での活動を通じて体力が向上している」のアンケートの肯定的な回答の割合	4：90%以上 3：80%以上 2：70%以上 1：70%未満	4	【これまでの取組】 ・朝食をきちんと食べている生徒が学年進行とともに増加している。 ・体育の授業での見学者がほとんどなく、運動部の活動も盛んに行われている。 ・今年度は給食室改修工事のため、2・3学期に給食が実施されなかったため、給食指導の機会が減ってしまった。 【今後の改善策】 ・睡眠時間が不規則にならないような呼びかけを続け、正しい生活習慣を身に付けられるようにする。	A	6	・給食室設備工事等で、2・3学期と給食が無かったのが大変残念です。 ・「運動会を成功させる」という目標があったのが、生徒たちのやる気の支えになったと思います。ありがとうございます。 ・運動会は、運動が苦手でも楽しめる競技があって良い。 ・普段は運動面の格差が大きいようなので、運動が苦手だったり運動部ではない人のアプローチがあって欲しい。 ・給食だよりが充実していて助かっている。 ・報道では学生の体力が伸び悩んでいるとあるが、食育を向上させ、正しい生活習慣を維持させている。 ・運動会はできる限りのことができたと思います。 ・一日の原動力の朝食の大切な時間、とても感謝いたします。授業に運動に体力が必要です。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	2					B	4	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。	4					C	0	
									D	0	
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	4	【生徒・保護者による学校生活・家庭生活アンケート】 「本校の授業は生徒にとって分かりやすい」「ICTを活用した授業は学力の定着に効果がある」のアンケートの肯定的な回答の割合	4：90%以上 3：80%以上 2：70%以上 1：70%未満	3	【これまでの取組】 ・今年度も学校公開が実施できず、保護者に学校に来ていただく機会がなかった。しかし、オンライン授業を行うことで、保護者に授業を参観していただくことができた。 ・ICTタブレット端末に関して、各教員が研修に励み授業改善に努めている。 【今後の改善策】 ・学校評価の保護者アンケートの意見を基に、今まで以上に授業改善を図る。 ・特別支援教育についてはサポートルームとの連携を密にすると同時に、研鑽をさらに深める。	A	3	・大田区ICT教育研究推進校と聞くと最先端のICT授業が受けられると思っている保護者もいるのではないかと思います。 ・教育系ユーチューブのコンテンツも参考にしてみてはいかがでしょうか。先生方も新しい考え方に戸惑いがあると思いますが、頑張ってください。 ・以前よりもタブレットの活用が多くなってきているようで、今後もさらに進んでいくことを期待している。 ・先生方の雰囲気が良く、コミュニケーションがよく取れている感じがあり、大きな安心感につながっている。 ・ICT機器を普通に使っていた生徒さんに驚きました。また、先生方の熱意も伝わりました。 ・ICT機器を用い教育する傾向大ですが、弁論大会など自己肯定する言葉の力が向上すればなおよい。 ・タブレットを活用した授業は良いと思います。 ・南中のICT研究推進校の授業は生徒さん親御さん両方にとても良い環境だと思います。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。	3					B	6	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	3					C	1	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4：月1回以上行った。 3：学期に2～3回行った。 2：学期1回以上行った。 1：実施しなかった。	3					D	0	
プラン6　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4：月1回以上更新した。 3：学期に2～3回更新した。 2：学期1回以上更新した。 1：更新しなかった。	3	【生徒・保護者による学校生活・家庭生活アンケート】 「学校行事への保護者の参加は多い」「学校は様子を伝えている」のアンケートの肯定的な回答の割合	4：90%以上 3：80%以上 2：70%以上 1：70%未満	3	【これまでの取組】 ・緊急配信メールで、随時保護者に学校からの連絡を伝えることができた。 【今後の改善策】 ・今後もHPや学校・学年だより等を充実させるとともに、生徒用タブレットを活用しながら、学校の様子を伝える。 ・学校支援地域本部との連携を図り、教育活動を充実させる。	A	3	・地域活動が再開できる時に、PTAもいつでもお手伝いできる日ができる体制を整えたいと思います。 ・情報が行事に偏りぎみなので、普段の様子や取り組みなどが知れるとよいと思う。HPは適度に新情報を更新しないと見てもらえないのではないか。活用されているとは言い難い。 ・開かれた学校にするには情報発信が欠かせない。先生方は忙しいので大変だとは思うが、生徒による学校新聞作りなど手はあると思う。 ・いつも学校だよりを見せていただいております。学校の様子がわかります。 ・学校だよりは目を通すが、ここ2年コロナ禍中で直接学校、生徒と交流できないが、連帯は継続されています。 ・タブレットを用いて学校の様子を保護者に伝えられるのは良いと思う。 ・コロナの収束を願いながら、生徒の皆様が地域活動に参加できますよう願っています。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4：毎回情報を提供した。 3：おおむね情報を提供した。 2：あまり情報を提供しなかった。 1：情報を提供しなかった。	4					B	5	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4：学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2：年1回以上行った。 1：実施しなかった。	2					C	2	
									D	0	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載す